

救急科研修

救急科ローテーション研修目標

生命や機能的予後にかかわる緊急を要する病態・疾病・外傷の評価、診断をおこない系統的かつ迅速に初期治療を行う能力を身につける

経験すべき診察・検査・治療

1. バイタルサインの把握ができる
2. 重症度と緊急度を即座に判断できる
3. 二次救命処置（ACLS）ができ、一時救命処置（BLS）を指導できる
4. 必要性の高い検査（検体、画像、心電図）を指示できる
5. 緊急性の高い異常検査所見を指摘できる
6. 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる
7. 救急医療体制を理解し行動できる
8. 災害時の救急医療体制・トリアージを理解できる

経験すべき手技

- ① 気道確保を実施できる
- ② 気道挿管を実施できる
- ③ 人工呼吸を実施できる（バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む）
- ④ 胸骨圧迫を実施できる
- ⑤ 除細動を実施できる
- ⑥ 採血法（静脈採血、動脈採血）を実施できる
- ⑦ 注射法（皮下、皮内、筋肉注射、静脈確保、点滴、中心静脈確保）を実施できる
- ⑧ 緊急薬剤（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗痙攣薬）が使用できる
- ⑨ 胃管の挿入と管理ができる
- ⑩ 導尿法を実施できる
- ⑪ 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる
- ⑫ 穿刺法（腰椎穿刺）を実施できる
- ⑬ ドレーン・チューブ類の管理ができる
- ⑭ 局所麻酔を実施できる
- ⑮ 簡単な切開・排膿を実施できる
- ⑯ 圧迫止血法を実施できる
- ⑰ 皮膚縫合法を実施できる
- ⑱ 創部消毒とガーゼ交換を実施できる
- ⑲ 包帯法を実施できる
- ⑳ 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる

経験すべき緊急を要する症状・病態

患者の症状・身体所見・簡単な検査所見に基づいて鑑別診断・初期治療を的確におこなえるようになるために、緊急を要する症状・病態を経験する

- ① 心肺機能停止
- ② ショック
- ③ 意識障害
- ④ 脳血管障害
- ⑤ 急性呼吸不全
- ⑥ 急性心不全
- ⑦ 急性冠症候群
- ⑧ 急性腹症
- ⑨ 急性消化管出血
- ⑩ 急性腎不全
- ⑪ 流産・早産および満産期（当該研修で経験してもよい）
- ⑫ 急性感染症
- ⑬ 外傷
- ⑭ 急性薬物中毒
- ⑮ 誤飲、誤嚥
- ⑯ 熱傷
- ⑰ 精神科領域の救急（当該研修で経験してもよい）

下線の病態を経験すること。（経験）とは初期治療に参加すること